

学際的な観点から考える次世代学校組織の協働と育成

1. 研究の先にある新たな未来とは？

本研究は、学校の組織づくりに関する研究です。小学校や中学校、高校の先生を対象に研究を行っています。教科横断型の授業や総合的な学習・探究など、一つの正答がない授業を展開していくには、先生の協働が不可欠です。本研究により、先生が、学習の専門家として、より良い教育実践を創造できるようになります。



2. どんな研究をしている？

質問紙調査などの量的調査法やインタビューなどの質的研究法を駆使し、教育委員会や学校と連携しながら、先生を対象に調査研究を行っています。どのような学校・先生が良い教育実践に取り組んでいるのか、調査により明らかにすることで、次世代の学校の協働のあり方を示します。また、それらをもとに、教育工学的手法を用いて教員研修の開発を行っています。

3. その研究をしようと思ったきっかけは？

元々、日本の先生は、協働して教育活動に取り組む事が得意で、日本の授業改善（授業研究）はLesson Studyと英訳され、世界的に評価され、全世界に広がっています。一方で、学校は、多忙化、人材不足が進んでいます。そのような状況の中で、学校はどうすべきか明らかにしていく必要があります。このような問題意識のもと、本研究がスタートしました。

次世代の学校組織における教員の
協働性に関する研究拠点

拠点長：脇本 健弘（教育学研究科）



詳細はこちら



いいね！を貼ろう